

## 妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児・子どもに 及ぼす影響について

南部 春生\* 山崎可南子\*\*

### 要約：

喫煙が健康を害する考えがわが国においてもようやく定着し、昭和62年厚生省は「タバコ白書」を報告した。

我々は昭和52年以来、妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児に及ぼす影響を調査し、当時の妊婦の喫煙率は12.4%であった。同様の調査を昭和62年より行っているが、妊婦喫煙率の推移、出生時体重、乳児期の疾病罹患状況について報告する。

見出し語：妊婦の喫煙率、胎内発育、疾病罹患状況。

### 研究方法：

#### 1. 研究対象と調査の方法

天使病院保健指導室を訪れた母親を対象に「母親の飲酒と喫煙に関する調査」用紙を渡し、該当項目に記載してもらう。

#### 2. 研究期間

- 1) 第1回～昭和56年12月～58年6月、
- 2) 第2回～昭和62年6月～64年6月。

### 研究内容と結果：

今回は第1回調査の一部について報告<sup>1)</sup>

#### 1. 妊婦の学歴と喫煙率、飲酒率

1) 妊娠以前から喫煙していた母親は32.1%に及び、うち妊娠中の継続喫煙者は8.4%であった。また継続喫煙者は中卒が17.6%と高く、以下高卒10.8%、専問卒6.9%、短大・大学卒4.5%

と低くなった。

2) 妊娠中の継続飲酒者は16.7%である。

#### 2. 妊娠前と妊娠中の喫煙本数の比較

非喫煙者の0.6%が喫い出し、1～10本喫煙者の71.9%、11本以上の42.7%が非喫煙者となる。

#### 3. 初産婦と経産婦の年令別喫煙率

初産婦の60%以上が喫煙を中止、経産婦25才以上で中止した者は35～47%と少かった。

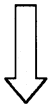
#### 4. 夫婦の喫煙行動の関係

夫が非喫煙で妻喫煙は13.3%で妊娠継続者は4.4%、夫が喫煙し妻喫煙33.5%のそれは8.8%。

考察：妊娠によって喫煙継続者は32.1%から8.4%に減少するが、さらに指導が必要である。

文献：1) 岸 玲子：妊婦の喫煙と飲酒行動について調査研究，公衆衛生，19：334，1985

\* 聖母会天使病院小児科、\*\* 同保健指導室



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

喫煙が健康を害する考えがわが国においてもようやく定着し、昭和 62 年厚生省は「タバコ白書」を報告した。

我々は昭和 52 年以來、妊婦の喫煙と飲酒行動が胎児に及ぼす影響を調査し、当時の妊婦の喫煙率は 12.4%であった。同様の調査を昭和 62 年より行っているが、妊婦喫煙率の推移、出生時体重、乳児期の疾病罹患状況について報告する。